

島根県ゲートボール協会

これまでのあゆみ

戦後の混乱の中で満足な遊具がない子どもたちのために、昭和22年北海道で誕生したゲートボールであるが、当初は全国的な普及とまではいかなかった。昭和50年代になると高齢者の娯楽として全国的に支持を得られるようになり、本県においても県教育委員会指導のもと各市町村が積極的に競技環境を整備し爆発的に普及していった。

昭和54年には旧大社町の有志を中心に競技団体設立を企画。昭和56年5月、島根県ゲートボール協会を設立した。発足当初は全国に3つあった競技団体のうち、熊本県に本部を置く全国ゲートボール協会連合会に加盟。同年7月には第1回島根県ゲートボール選手権大会を開催した。

昭和59年には3つの競技団体を統合し、中央競技団体・日本ゲートボール連合が発足。それに伴い県内の競技人口も高齢者を中心に1万人を優に超え、県下大半の公民館、集会所にはゲートボール場が併設されていた。しかし高齢者の娯楽が多様化したこともあり、平成9年を境に減少の一途をたどっている。全国に一時50万人いた競技者が現在は10分の1ほどになっている。島根県においても同様である。

老若男女同じルールで対等に競技できる唯一無二のスポーツということもあり、島根県内においては平成8年より青少年の育成に力を入れている。なかでも出雲西高校は高校ゲートボール草創期より活躍し、全国を牽引する存在であった。小中学生の分野においても全国の競技団体に先駆けて令和5年、スポーツ少年団を結成。全国規模大会では平成19年10月、第23回全日本ゲートボール選手権大会、令和元年12月、第8回全国高等学校ゲートボール選手権大会、令和4年9月、第39回全日本世代交流ゲートボール大会を主管した。



審判員養成風景

現在の状況

競技人口としてはピーク時の10分の1ほどになっており、近所にくらでもあったゲートボール場は大半が廃止されている。県内全市町村にあった支部も半数になり、現在の競技者は出雲市、雲南市、松江市が大多数で、島根県西部および山間部における競技者はわずかである。

競技者の属性は70歳以上の男性が8割を占めている。しかし、競技自体は戦略、技術ともに高度になっており、国民スポーツ大会公開競技では男女ともに若手主体のチームが毎年優勝している。島根県ゲートボール協会においては、青少年育成、女性競技者の育成、職域チームの育成の3本柱で競技者の底上げを図っている。世界に目を向けるとアジアを中心に普及が広がっており、海外との交流も始まっている。

これから

高齢者の娯楽ではなく高齢者でもできるスポーツとして内外に発信していきたい。

国民スポーツ大会の正式種目を目指しているが、未だ実現していない。一つの理由としてアンチドーピングの観点から現在の競技者層では問題点が多いことがあげられる。

常用薬を服用する年齢層が8割を占める現状では非常にハードルが高い。娯楽としてのゲートボールと、スポーツとしてのゲートボールを切り離して普及していくことが求められる。Made in Japanの数少ないスポーツの一つで、世界に普及するに十分魅力がある競技であるため、今後は若年層の育成に尽力していきたい。



全国大会で活躍するジュニア選手